

# 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

## 平成28年度事業報告（概要）

### I. 公益目的事業

#### 1. 農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績ある者の表彰

##### 1) 平成28年度農業技術功労者表彰

農業技術・経営の研究又は技術普及に顕著な功績を挙げた功労者を対象とする農業技術功労者表彰事業を農林水産省と共催した。選考委員会を開催し6件を選出するとともに、表彰式・祝賀会（12月16日（金）三会堂ビル9階石垣記念ホール）を実施した。

##### 2) 第17回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業

民間部門における農林水産部門研究の優れた功績を表彰する第17回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業を農水省と共催した。協会会長賞2件を含む10件について、12月14日（水）アグリビジネス創出フェア2016（東京ビッグサイト）メインステージにおいて表彰した。

##### 3) 第12回若手農林水産研究者表彰事業

優れた功績をあげた若手研究者または将来の技術革新等につながる優れた研究業績をあげた若手研究者を表彰する第12回「若手農林水産研究者表彰事業（農林水産省農林水産技術会議主催）」に協賛し、選考委員会、表彰式を支援した。なお、表彰式は12月14日（水）アグリビジネス創出フェア2016（東京ビッグサイト）メインステージにおいて行われた。

##### 4) 農事功績者表彰事業候補者の推薦

農事功績者表彰事業を主催する公益社団法人大日本農会の依頼により櫻田 博氏、伏原肇氏を推薦したところ、両氏に「緑白綬有功章」が授与された。

#### 2. 農林水産・食品分野におけるイノベーション促進のための支援

##### 1) 情報の提供・普及

###### (1) 講演会、セミナー等の開催

農林水産業、食品産業及び関連産業をとりまく重要な技術課題を取り上げ、技術情報交流セミナー等を開催した。

###### (2) 機関誌の発行、情報のホームページ等での公開

機関誌「JATAFF ジャーナル」を毎月1日に1,700部を刊行した。ホームページの運営ではコンテンツの充実に努めた。ページビュー（閲覧ページ数）は年間約192万、延べ訪問数は約38万件であった。また、イベント、講演会、最新研究成果・事業実施情報等をメールマガジンとして、JATAFF 正会員希望者に JATAFF ニュース(91号～114号、他に号外2号)を配信した。この他、公設試験場所の最新の研究成果情報等を収集、新技術として営農活動に寄与しうる課題を選定し、情報誌「グリーンレポート」掲載原稿を作成した。

## 2) 新産業の創出、研究開発・成果の普及のための調査・支援

### (1) 「知」の集積による産学連携推進事業(知的財産の技術移転加速化事業・産学連携支援事業)

産学連携の仕組みとして構築された「知」の集積と活用場において、全国の活動組織を集めたコンソーシアムの代表機関として、高度な専門知識を有するコーディネーターを駆使して異分野との融合を含む産学連携の更なる強化を図る活動を進めた。全国規模及び地域において技術交流展示会やセミナー、知的財産に関する研修会を開催するとともに、知的財産に関する調査・調整等の支援により、「知」の集積と活用場における技術移転の加速化を図った。

### (2) 「戦略的技術開発体制形成事業」のうち「戦略的技術開発体制推進事業」

(農水省技術会議事務局研究推進課28年度補正予算)

農林水産・食品産業分野における技術開発を効果的・効率的に進めるため、セミナー開催などにより民間企業・大学・研究機関等による研究ネットワークの形成への理解の醸成を図るとともに、地域におけるネットワークの形成への取り組みをコーディネート人材を活用して支援した。

### (3) 農林水産・食品分野における研究成果の普及状況に関する調査等

#### ア 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農食研究推進事業)における研究成果普及状況把握・分析調査等に係る業務委託事業

農食研究推進事業における26年度終了課題(2年後調査)や実用化技術開発事業における23年度終了課題(5年後調査)など、228課題について研究成果の普及状況の詳細な把握と普及上の問題点などの分析を行った。

農食研究推進事業における研究課題の審査・評価関連業務、成果発表等の支援を行った。また、60名の専門POを配置して185課題の進行管理業務を実施した。

#### イ 食料生産地域再生のための先端技術展開事業における研究課題の進行管理調査等に係る業務委託事業

20名の専門POを配置し、16研究課題の進行管理業務等を実施した。

### (4) 植物品種の保護、開発等に関する調査研究

#### ア 「植物品種保護戦略フォーラム」の活動

植物品種の育成者の権利保護と活用促進に寄与するために、植物品種育成者権の侵害対策や活用に関する講演会及び登録品種表示マーク(PVPマーク)の普及、施策・制度に関する意見提出等を行う「植物品種保護戦略フォーラム」の事務局を担った。

#### イ 「新品種産業化研究会」の活動

既存の品種とは特徴の大きく異なる植物の新品種を用いて新しいビジネスを展開し、地域経済の活性化に資するため、「新品種産業化研究会」とその下に設けられた「すいおう分科会」及び「油糧米分科会」の事務局を担った。

#### ウ 東アジア包括的植物品種保護戦略事業

東アジア各国の植物品種保護(Plant Variety Protection、PVP)制度の整備・充実を支援し、その国際調和を図るための活動を実施した。

## エ 農林水産分野における遺伝資源利用促進事業

我が国の遺伝資源利用者による海外遺伝資源の円滑な導入と適切な利用を促進し、画期的な農作物等の新品種の開発促進に資するための本事業のうち、事業の実施主体である三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)から業務請負により東南アジア地域での植物遺伝資源調査を実施した。

## オ 次世代育種技術研究開発プラットフォーム

遺伝資源の有効活用とゲノム編集などの次世代育種技術を利用した新品種開発とその社会実装を図るためのビジネスモデルを作成し、モデル実現に必要な技術課題等についての研究開発を企画提案することを目的とした「知」の集積による産学連携推進事業の研究開発プラットフォームを構築、管理運営機関として活動を推進した。

## カ 植物品種等海外流出防止緊急対策事業（28年度食料産業局知的財産課補正予算）

コンソーシアムの代表機関として、海外において品種登録出願を行うことが我が国農産物の輸出力強化につながるものについて、海外出願に係る経費の支援を行うとともに、当該国への出願のためのマニュアルの作成、相談窓口を設置するなどの活動を進めた。

## 3. 農林水産・食品分野における試験研究、技術開発を振興するための助成及び先端産業技術の開発

### 1) 研究の助成

#### 新稲作研究会事業

我が国の土地利用型農業の活性化及び需要に応じた農業生産の拡大・環境保全に資するため、低コスト稲作、水田高度利用、野菜果樹作等の機械化一貫栽培体系の確立と普及を目的とした試験及び現地実証展示圃事業を、試験研究機関及び普及機関に委託して31課題を実施した。

### 2) 農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合の事務局活動

「応用と共に深化するマイクロ・ナノバブル（ファインバブル）の科学と技術」と題する公開シンポジウムを開催するとともに、「知」の集積の研究開発プラットフォーム（事務局；（一社）ファインバブル産業会（FBIA））に会員として参加し、研究課題の具体化に取り組んだ。

### 3) 戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）課題

#### (1) ファインバブルの活用「農林水産系ファインバブル技術開発」

JATAFF が代表機関を務めてきた「農林水産系ファインバブル技術開発コンソーシアム」の研究課題が「オミクス利用による新世代栽培技術開発コンソーシアム」（代表機関 農研機構野菜花き研究部門）に組み込まれたことから、ファインバブルコンソーシアムは解散し参画研究機関は改めてオミクス利用コンソーシアムにそれぞれ参加を申し込む形で研究を継続した。JATAFF はファインバブルグループの代表として、ファインバブル技術開発研究の推進、成果のとりまとめ等を担うとともに、自らも葉菜類等に対するファインバブル利用マ

ニュアルの作成、レタス栽培における効果を再確認するための植物工場における実証試験に取り組んだ。

## (2) NBTの社会実装のための社会科学的調査と導入遺伝子残存や変異発生等に関する科学的知見の集積

NBTを利用して開発された農林水産物の産業化を推進するための会議の事務局を担当するとともに、国民の受容レベルの推測、上市・普及に供するための具体的戦略・手法の提案に向けて取り組んだ。

## 4) 農林水産先端技術研究所の活動

平成27～28年度 JRA 畜産振興事業「ゲノム情報活用育種改良推進事業（豚改良へのゲノム情報の活用高度化事業）」及び農林水産省委託プロジェクト研究「DNA マーカー育種の高度化のための技術開発」、「海外からの侵入が危惧される重要家畜疾病の侵入・まん延の防止技術の開発」を実施した。

なお、農林水産先端技術研究所は28年度限りで農研機構に譲渡された。

## II. その他の事業

### (1) 農林水産技術同友会及び全国農業関係場所長会の事務局活動

### (2) 民間育成品種等の公的機関での評価試験委託

会員企業2社からの要請に基づき、会員企業が育成した品種の評価試験を関係試験研究機関委託して延べ5県で実施した。

### (3) 専門部会活動 「安全性・品質保証部会」

部会活動を通じて、会員活動の充実と、関係官庁、関係業界との情報交換、さらには会員参加による効果的な事業運営を図ることを目的として、食品表示関連テーマを始めとして講演会を3回開催した。

## III. 総務関係

### 1. 平成28年度定時総会

6月10日(金)13:15～14:50 三会堂ビル9階石垣記念ホール

### 2. 理事会

第1回理事会 5月27日(金) 10:00～11:30 三会堂ビル2階A会議室

第2回理事会 6月10日(水) 14:50～14:55 三会堂ビル9階第1会議室

第3回理事会 10月28日(金) 10:30～12:00 三会堂ビル2階A会議室

第4回理事会 3月14日(火) 10:30～12:00 三会堂ビル2階A会議室

### 3. 事業監査

5月13日(金) 10:00～12:15 JATAFF 会議室

4. 運営委員会

5月16日(木) 13:15～15:30 三会堂ビル2階S会議室

5. 公募役員候補者選定委員会

5月11日(水) 14:00～15:00 JATAFF 会議室

6. 内閣府公益認定等委員会事務局定期立入検査

平成29年2月7日(火) 10:00～16:15 JATAFF 会議室

7. 農林水産先端技術研究所の農研機構への寄附について

研究所の建物・施設は農研機構に無償譲渡され平成28年12月28日(水)付で農研機構へ移転登記された。土地については、12月22日(木)付けで30年間の地上権を設定し地代を無償とする地上権設定契約を締結し、28日(水)に地上権設定登記が完了した。